

## 論文審査の要旨

報告番号	総研第 421 号	学位申請者	沖田 信夫
審査委員	主査	嶽崎 俊郎	学位 博士 (医学・歯学・学術)
	副査	夏越 祥次	副査 宮田 篤郎
	副査	乾 明夫	副査 橋口 照人

**Potential predictors of susceptibility to occupational stress in Japanese novice nurses - A pilot study (日本人新入職看護師の職業性ストレス感受性を予測する因子—予備的検討)**

職業上のストレスは労働者が離職に至る一因である。学位申請者は、産業医として職業上のストレスが離職の一因であることを実際に経験し、職場環境要因だけでなく、これまでに十分な研究が行われていない個人要因についての解析の必要性を考え、本研究を行った。個人要因として、雇入時健診項目や特定健康診査質問票から得られる生活習慣項目、尿中ミネラル物質の4月時の情報が、入職後のストレス状況を予測する指標となり得るかを検討した。

対象者は2015年4月に鹿児島大学病院へ入職した女性看護師62名で、研究内容を書面で同意を得た。16名が尿未提出、3名が離職、1名が9月の調査票未記載のため、解析から除外され、最終的に42名(平均21.9歳)を解析対象とした。入職時検査として、職業性簡易ストレス調査票のB項目(ストレスによる心身反応を評価)と生活習慣調査、尿中ミネラル(Na, K, P, Ca, Mg, Cl)および雇入時健診項目を用いた。B項目は5段階評価の換算値(値が低いほどストレス状況が悪い)を用い、身体ストレス状況、精神ストレス状況、総点の3評価を行った。検尿項目は尿中クレアチニンで補正した。入職後9月に、職業性簡易ストレス調査票のB項目だけを再度実施した。単変量解析で相関の強かった項目については、多重共線性の評価を行い、多変量解析を実施した。

その結果、本研究で以下の知見が明らかにされた。

- 1) 4月と9月のストレス状況を比較して、42名中41名の方が、B項目総点が低くなり、身体ストレス状況、精神ストレス状況、総点のいずれの中央値も有意に低くなった。
- 2) 4月の検査項目と4月のストレス状況との比較においては、「食事摂取が早い群」が、「そうでない群」に比べて、総点において有意な差があった。その他の項目では違いを認めなかった。
- 3) 4月の検査項目と9月のストレス状況との比較において、雇入時健診項目の収縮期血圧と尿中Na排泄量が、ストレス状況(総点)と負の有意な相関を認めた。生活習慣項目においては、入職1年前の体重変化(3kg以上)の有無、就寝前2時間以内の夕食摂取の有無がストレス状況(身体ストレス状況、精神ストレス状況、総点)において有意な違いを認めた。
- 4) 多変量解析では、尿中Na排泄量と上記生活習慣2項目は、9月のストレス状況(身体ストレス状況、精神ストレス状況、総点)と独立した関連が認められた。

縦断的な観察研究(4月の検査項目と9月のストレス状況の比較)によって、職業性ストレス感受性に関与する個人要因が明らかにされた。雇入時健診項目や、特定健康診査質問票から得られる生活習慣項目、尿中ミネラル物質の4月時の情報が、入職後のストレス状況を予測する指標となり得る可能性を明らかにした研究であり、予備的な検討ではあるが、今後の研究の基盤的情報を与えた点で、大変意義深い。よって本研究は学位論文として十分な価値を有するものと判定した。